

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT28101

アラブ音楽の世界—みんなでリズムを体験してみよう！



開催日：平成28年7月23日(土)

実施機関：多摩美術大学

(実施場所) (八王子キャンパス メディアセンター)

実施代表者：松田 嘉子

(所属・職名) (美術学部・教授)

受講生：高校生3名

関連URL:

【実施内容】

受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

本プログラムは、①「チュニジア古典音楽の楽理と現代的実践の解析」(H23-24)、②「チュニジア音楽のトゥブー(旋法)とイスティフバル(即興)の分析」(平成25-27)、③「現代チュニジアにおけるマルーフとシャルキーの共存とその学識」(H27-H28)の研究成果をもとに実施した。

日本の音楽教育では、あまり触れられてこなかったアラブ音楽について知ることを通じ、世界の文化の多様性に想像力を馳せ、日本文化についても意識的に考察することを目的とした。アラブ諸国の歴史や地理を踏まえたうえで、アラブ音楽の独特な楽器や西洋音楽では用いられない特徴的な音階、リズム等を紹介し、実際の演奏を聴くことや、受講生自らリズム楽器に触れ、音を奏でることで、アラブ音楽の一端を体験してもらうプログラムを企画した。中学生・高校生を対象に定員20名のところ、5名の応募があったが、キャンセル及び欠席者が生じた結果、当日は3名でプログラムを実施した。

受講生に分かりやすく研究成果を伝え、自ら活発な活動をさせるために本プログラムで留意・工夫した点は、以下のとおり。

- ①アラブ音楽圏は広範囲に及ぶため、配布資料とプロジェクターに映した地図を見ながら、研究対象であるチュニジアが地中海沿岸にあり、東西アラブの中間に位置して両方の文化が融合する地域であることを理解できるようにした。
- ②歴史的にも古代から現代までを概観し、アラブ音楽がギリシャの理論に影響を受けていることや、スペインを通じてアラブの楽器がヨーロッパに伝わったことなど、西洋音楽との関連や対比にも触れることで、アラブ音楽のあり方が身近なところから理解できるよう努めた。
- ③アラブの伝統楽器を紹介する際、配布資料とプロジェクターに映した写真を見ながら、代表的な楽器(ウード、ナイ、カーヌーン、リク、ダルブッカ)の特徴や役割、微小音程が出せる構造などを説明し、アラブ音楽の特質を理解するための導入とした。
- ④音楽家による生演奏や歌を聴くことにより、楽器の音や演奏法、講義で解説したリズム・音階の特徴などを実感できるようにした。即興演奏が重視されることや、演奏家と観客のインタラクティブな関係など、アラブ音楽のパフォーマンスの特質も知ってもらった。

⑤実習の部では、受講生全員が打楽器リクを持ち、音楽家の指導のもとに、楽器の構え方から基本のリズム要素、その組合せで多彩な音楽が構成されていく過程を実感できるようにした。

⑥キャンパスツアーやクッキータイムなど、気軽に話したり自由に発想できる時間を設けた。クッキータイムではアラブやトルコのお菓子(バクラヴァ、トルコアイス)、ドライフルーツ(ナツメヤシ、イチジク)などを用意し、アラブの食文化をきっかけに日常の話やプログラムの感想などを活発に話し合う場になった。

当日のスケジュール

平成 28 年 7 月 23 日(土)

9:50-10:10 受付(多摩美術大学 八王子キャンパス メディアセンター)

10:10-10:20 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)

10:20-10:30 プログラム開始準備(実施者・受講者同士の自己紹介・休憩等含む)

10:30-11:10 講義①「アラブ音楽の歴史と楽器紹介」(講師:松田 嘉子)

11:10-11:20 休憩

12:20-12:00 講義②「アラブ音楽の音階とリズム」(講師:松田 嘉子)

12:00-12:30 キャンパスツアー(休憩含む)

12:30-13:30 昼食・休憩(大学食堂)

13:40-14:25 実習①「アラブ音楽を聴いてみよう！」

(演奏:ル・クラブ・バシュラフ/松田 嘉子、竹間 ジュン(音楽家)、子安 菜穂(音楽家))

14:25-14:30 休憩

14:30-15:10 実習②「アラブ音楽のリズムを奏でてみよう！」

15:10-15:30 クッキータイム(多摩美術大学 八王子キャンパス 本部棟)

15:30-15:50 ディスカッション

15:50-16:00 修了式(未来博士号授与、記念撮影、アンケート記入)

16:00 終了・解散

実施の様子



講義①「アラブ音楽の歴史と楽器紹介」
楽器について紹介



講義①「アラブ音楽の歴史と楽器紹介」
アラブ地域の地理・歴史について説明



講義②「アラブ音楽の音階とリズム」
音階とリズムについて、音源を用いて説明



実習①「アラブ音楽を聴いてみよう！」
ル・クラブ・バシュラフによる演奏



実習①「アラブ音楽を聴いてみよう！」
楽器紹介(ナイ)



実習①「アラブ音楽を聴いてみよう！」
楽器紹介(ウード)



実習①「アラブ音楽を聴いてみよう！」
ボーカル入り実演



実習②「アラブ音楽のリズムを奏でてみよう！」
打楽器(リク)体験



実習②「アラブ音楽のリズムを奏でてみよう」
皆でセッション



実習②「アラブ音楽のリズムを奏でてみよう」
記念撮影



ディスカッション

事務局との協力体制

- ・研究支援部が振興会への連絡調整と、提出書類の確認・修正等を行った。
- ・経理部及び研究支援部が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。

広報活動

- ・実施者や研究支援部、総合企画室、入学センターが協力して近隣中学校・高校、美術系の専科をもつ高校、アラブ諸国の大使館、アラビア語系語学学校、マスコミ等にチラシを郵送し、本事業のPRを行った。
- ・実施者と研究支援部、総合企画室が連携し、大学HP、SNS等で広報活動を行い、受講生の募集を行った。

安全の配慮

- ・実習の安全確保のため、受講生3人に対し1人の割合で実施協力者(大学生)を配置した。
- ・参加者の事故、怪我、体調不良の対応として、大学の保健室と協力体制を整えた。
- ・受講生の食事については、アレルギー等について、事前に本人や保護者に確認した。
- ・受講生と実施協力者については、短期のレクリエーション保険に加入を行った。
- ・実施者については、大学が加入している保険を適用。
- ・受講者の食べ物については、事前に保護者へアレルギーの有無を確認し、配慮を行った。

今後の発展性、課題

高校生を対象に、アラブ音楽の構造や特質というテーマで午前中に講義を二つ、午後に実習を二つというプログラムを実施した。大人でもハードルの高そうな内容だが、受講生は大変熱心に聴講し、実習にも真剣に取り組んでくれた。多感で若い頭脳や身体は、柔軟な理解力や吸収力に富むことをあらためて確認し、研究内容を伝える喜びを感じた。こうした人たちが将来、今まであまり研究されてこなかった分野に踏み込んで行くかもしれない姿を想像すると、このようなプロジェクトの意義や重要性を感じる。

打楽器リクを叩く実習部分も、初めて触れる楽器で、重く(約 1kg)、奏法もけして易しいはずもないのだが、誰一人ためらったり諦めたりすることなく、根気よく練習を続け、最後は全員でリズムアンサンブルを創造する面白さも感じてくれたようだ。実際の楽器の演奏がとても楽しく、今後も続けたいと思ったなど、嬉しい感想を聞くことができた。

アラブ音楽の内容は多岐にわたるため、今回は「アラブ音楽のリズム体験」に主眼を置いて、打楽器リクの実習を中心に据えたが、応用編としては「アラブ音楽の音階体験」と題して、実習で管楽器ナイなどメロディ楽器に挑戦してみることも考えられる。また将来的には、音楽を取り巻くより広範な芸術文化にも触れられるよう、美術、文学、建築、工芸、料理などの講師とのコラボレーションのコーナーを設けるなどの立案の可能性も探してみたい。

実際に「来て、見て、触れて」もらった受講生、参観の保護者や学生助手には大好評だったプログラムだが、課題は受講生募集の方法で、研究に興味を持つような青少年たちに、情報がうまくキャッチされるかどうかである。今回は、プログラムが採用されてから広報活動期間(広報チラシの作成等)が短く、また授業期間と重なっている学校もあることが分かったため、開催日の設定の注意が必要であった。

【実施分担者】

無し

【実施協力者】 3 名

【事務担当者】

佐々木 絵美 研究支援部 研究支援課・主事補